

5月2日(5月8日)午後 報告, 討論要旨

14.20 ~ 17.30 座長 朝永

宮沢: 世界平和と日本

主として憲法, 特に9条について話す

憲法は前文で恒久平和を理念としており, これを9条で具体化している

9条はその前半で戦争放棄, 後半で軍備の廃止を規定している

戦争放棄を憲法(国内法)によって一方的に, 或は条約(国際法)によって多角的に規定した例はあらず。しかしこれはいづれも侵略戦争, 又は自衛隊の手段としてという制限がある。

軍備廃止及軍備は第一次大戦以後, 国際的にはしばしば企図された。

9条の以上を比しての新しきは:

1) 予ての戦争を放棄している。これは異議をもちず, かつとも限定は明記されている。

2) 軍備廃止は国際的, 相互的でなく, 国内的・一方的である

9条の権限がどこから提起されたかは結局不明だが, これは重要である。

9条は, 敗戦による武器解除のため, 最初はそのまま実施されたが, 警察予備隊創設以来, 問題を生じた。自衛隊の合憲不違憲はまだ結着がつかない。合憲論には自衛戦力合憲論,

~~再軍備~~ 戦力論, Manifest 論等がある

再軍備の支持, 反対の両側にいくつもの意見がある

支持側には9条改正反対論はる。

反対側は自衛隊は違憲であるとして改憲反対である。

九条は最初多くの人から支持されたが、これは主として戦争の悲惨さに対する反動であった。冷戦の激化に伴ってこのような無批判的無反省的、感情的反対は弱まった。今日、九条を支持するにはムード的ではなく、現実的根拠を必要とする。これは Fugwash movement 的な考え方が有効である。これは容易な問題ではない。谷川氏の述べたように、人類の福祉と破滅という alternative が政府が天口をえらぶとは無条件にいえる。高いモラルの立場に立つのは政治的問題としては必ずしも容易である。現実的、功利的なところまで下り、政治的厭煩によってそれを高いモラルにまでみろびくことが必要である。

討論

田中：自衛権はどのように考えられたか。

官沢：最初は自衛権と自衛戦とは同じに考えていた。しかし

自衛権は存在し得るものとなり、軍備がなければ自衛権が
あると云っては何にも存在しないというように変わってきた。

福島：憲法制定当時と今日では校舎等の発煙度が異なることを
考えるべきだ。

官沢：感情論に立つるためには、どういふ問題をあげれば済むか。

福島：現実には戦争ができなくなっているという意味で九条には
積極的な意味が乏しい。

坂田：日本口憲法は 互異的モードだけでなく、これを継承する世界的な思想はあったのみ。

谷川：核兵器の出現により、力による平和は 歴に於けるという思想はすでにあった。

豊田：GHQには、国家主権を認める立場で最も進ましい憲法を作るという考え方があったのみ。

宮沢：GHQの一部には同じ考え方はあった。アフリカの憲法学者は憲法に参加しているが、全体としては注カリーの歴史の流れを背負っている。佐田の案については改正の余地がないとは云えないが、問題は改正の方向にある。

田中：九条は完全に封ざらねばならないが、効用はあったと思う。それ以上特に核兵器と結びつけるといえるわけではない。口連検会の「核兵器使用は人類に対する犯罪である」との宣言ははっきりさせてよいと思う。

田中：憲法改正論者の改正の方向、改正案はどのようなものか

宮沢：いはいいあるが、侵略戦争はしないことを行い、防衛のための最少限度の準備を持つといふのが多いようである。

坂田：侵略戦争といふことではなく戦争そのものをやめることが、現在では必要であること強調すべきだ。

休憩 (15.50)

再開 (16.15). (以後は声明の討議に直接関係のないものに随う一部を)

大佛: 世界政府も一時に全世界的なものは困難である。核兵器の口際、
管理ができれば大進歩である。

谷川: Russellは、World GovernmentよりもWorld Authorityを主張している。

大佛: 口毎に発展段階や性格が違っているので困難がある。

谷川: 例えばヨーロッパ連合はできても、アジア連合は困難である。

桑原: EECはオマの大口をめぐっているので、プラスもあるがマイナス面
も大きい。特にドゴール等には、白人、ヨーロッパ人の優越性という考え方が
implicitにはある。

谷川: 世界連邦運動には universalism と regionalism とある。
regionalism は、regional egoism を助長する点で危険性
がある。UNESCO、学会等を通じる functional approach が
考えられている。

声明草案についての討論

- 桑原： アジア太平洋核非武装地帯とは正確にはどういう意味か
- 豊田： 朝鮮、台湾、日本（沖縄を含む）のつもりである
- 山田： いろいろの意見がある。討論してほしい。
- 田中： 軍縮条約が結ばれるまでには時間がある。それ迄、口連總會の核兵器使用禁止の口際宣言を支持することを入れた方がよいと思う。又軍縮のオーストリアとはどういう意味か。
- 朝永： 軍縮はいつまでに大きくやらないとできないというのが、田中氏の意見であった。
- 田中： 軍縮そのものには又段階があるが、軍縮条約ができる前に、その成立を容易にさせる方法の一つとして核非武装地帯は考えられる。
- 田中： 査察の問題で、現在の探知網について我々が知らないという問題が残る。もう少し材料がほしい。
- 小沼： 障害という意味で、大気圏内のものを一番に禁止する必要があるということだ。
- 朝永： Einstein の人類殲滅をさける目標が他のすべての目標に優先するという目標を入れない。
- 坂田： 核兵器による世界最初の被害口という表現は更えた方がよい。平塚氏もいうように加害口になりかけている。
- 朝永： 被害口には二通りの意味がある。同じような被害を他に被らせたくないという意味と、被害をよく知っているという意味と。

豊田： 三村氏は被害者に対する責任を強調している。

坂田： 被害者というなら中口に対する日本のこともある。

朝永： 感情にうったえるような使い方はここではしたくない。

朝永： 世界連邦ほどの程度の国家主権の制限か。

谷川： Maximalism と Minimalism との両方ある。最近では後者の考えが多い。その中でも特に、大西洋地域のみに限ろうという Atlantic Union が米、西欧で有力、E.E.C.の聲援にこれがある。

田中： 将来、軍縮の第一段階がはじまつたとする、完全軍縮後の問題を考える必要がある。

田中： 核兵器の管理は軍縮と一体である、核弾頭はなかなかおとえ難いが、運搬用具の方はそれより容易でこれからということになる。

坂田： 中口の問題が軍縮ですでに問題となる、それをどうするか。

朝永： 中口の口連加盟が解決しなければならぬ。

谷川： それを入れた方がよいと思う。

田中： 適当な表現で少し入れることが効果的だと思う。

田中： 声明には論理性がある方がよい、科学者会議だから。

全員： 賛成

(以上：高木、山田記)